

定方洋平



◆自己紹介

2018年から福知山市大江町で農業を始めました。今は水稻を26ヘクタール作付けしています。

農業を始める前は、機械屋、地球一周の旅、八百屋、土木作業員、ラーメン屋、ゲストハウススタッフ、大型運転手など、いろんな仕事を経験してきました。どれも自分にとって大切な時間でしたが、最終的に「食べ物を作ることが平和につながる」と感じて、農業の道を選びました。

◆栽培でこだわっていること

近年の異常気象に対応するため、菌根菌資材（マイコス）を使っています。また、栽培品種は「にじのきらめき」「きぬむすめ」「京の輝き」といった高耐性品種です。

たい肥や土壤改良剤を使って、病害虫に負けない強い土・強い稻づくりを心がけています。農法は慣行農法です。



◆農業を始めたきっかけ

戦争や格差社会の中で、お腹いっぱい食べられない人たちの存在を知ったことです。ちょうど大江町には耕作放棄地が多く、「ここで食べ物を作ることが、誰かの役に立つかかもしれない」と思ったんです。

今は、畜産農家さんと連携しながら、資源を無駄にしない循環型農業を目指しています。世界的にも資源が貴重になってきている中で、持続可能な農業のあり方を模索しています。



◆こんな仕事をしています

機械作業が中心です。春はトラクターで耕したり、畦塗りをしたり、水を張って田植えをします。秋はコンバインで稻刈り。稻刈りが終わったら、田んぼの修繕で重機を使います。季節によって使う機械が違うので、飽きることはありません。YouTuber並みに機械に乗れるようになるには、3年くらいかかるかも。でも、それだけにやりがいのある職人仕事です。